

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	天野 暁
論文担当者	主 査 小山 英則
	副 査 中込 隆之
	副 査 越久 仁敬
学位論文名	Reliability of remote evaluation for the Fugl-Meyer assessment and the action research arm test in hemiparetic patients after stroke (脳卒中後の上肢麻痺を有する患者に対する Fugl-Meyer assessment と action research arm test における遠隔身体機能評価の信頼性)
論文審査の結果の要旨	
<p>脳卒中に由来する年齢標準化死亡率は世界的に減少しているが、膨大な医療資源が脳卒中リハビリテーションに費やされている。これらの有効性と安全性を評価すべき臨床研究において、評価者盲検化の困難さは大きな問題となっている。申請者は、評価者に対する盲検化の手段として、ビデオを用いた検者間信頼性を、代表的な上肢機能評価法である Fugl-Meyer Assessment (FMA) と Action Research Arm Test (ARAT)を用いて検討した。</p> <p>研究デザインは脳卒中患者に対する横断的単施設試験である。サンプルサイズの見積もりは、級内相関係数(intraclass correlation coefficient, ICC)を基に 28 名と算出され、30 名が登録された。訓練された評価者によって、予め決められた撮影方法と評価方法に従い各患者に対して二様式(直接評価とビデオ評価)の評価が実施された。FMA と ARAT 合計得点の ICC 解析結果は、それぞれ 0.998 (95% confidence interval [CI], 0.995-0.999; P <0.001) と 0.998 (95% CI, 0.996-0.999; P <0.001) であった。各項目得点に対する相対的検者間信頼性を重み付けされたカッパ係数範囲は、FMA にて 0.697-1.000、ARAT で 0.909-1.000 であった。さらに合計得点に対する絶対的検者間信頼性を Bland-Altman 法により検討し、limits of agreement (LOA) は FMA で-2.87~2.87, ARAT で-2.70~3.04 であった。</p> <p>本研究により、2つの機能評価法の遠隔評価が十分に有用であることが示された。天野氏の研究成果は、Topics in Stroke Rehabilitation 誌 (IF 1.964)に採択され、既に新たな臨床研究にもその方法論が採用されている。リハビリテーション領域の臨床試験の発展に大きく寄与しうる本研究の知見は、学位授与に十分値すると判断した。</p>	